グッジョブ FUKUSHI

このコーナーでは福祉の仕事や団体などについて紹介します！

今回は、登米市中田町にある有限会社みんなの家の代表取締役の猪又実さんと総務部の石塚洋介さんにお話しを伺いました。

有限会社みんなの家は、小規模多機能介護施設※1と複合型障害者福祉施設ふぁみりぇを併設しています。小規模多機能介護施設にはデイサービス、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅があります。ふぁみりぇは障害福祉サービスの就労継続支援B型「みんなの家のぞみ」、共同生活援助「みんなの家なごみ」と、企業主導型保育所「みんなの家あゆむ」、「かふぇ　やまぼうし」の4つの施設が一体となった複合型障害者福祉施設です。

▲代表取締役の猪又さん（左）と、石塚さん（右）

そこは幼児、障害者、高齢者、働く職員がみな笑顔で暮らせる「小さな街」のようでした。

※1 小規模多機能介護施設とは、有限会社みんなの家独自のもので、介護保険制度の地域密着型サービスの一つである「小規模多機能型居宅介護」とは異なります。

『小さな街』のはじまり

猪又さん 親の介護を考えた時に、閉鎖的で山の中にあるような施設で過ごすのではなく、身近な場所で、趣味を活かして楽しく暮らしてもらいたいと思いましたが、当時はそのような施設はありませんでした。それなら自分で作ろうと思い、同級生や、同じ思いを持った人たちにも出資してもらいました。元々は建設業を営んでおりましたので、自分で建物の設計ができたのも大きかったですね。自宅に近い環境をどうすれば作ることができるのか考えました。木造平屋でトイレと洗面台のある個室にしたいとか、人が集まってワイワイ楽しく過ごせる場所も必要だとか。

登米は自分が生まれ育った場所であり、同級生の親やその世代の方に完成した施設を利用してもらえたことはとても嬉しかったです。

『小さな街』の素敵な空間

猪又さん 施設の設計には、木材が見えるようにしたところと、天井を高くして天窓を取り付けたところに特にこだわりました。また、高齢者の施設と障害者の施設の色合いは全く違うものにしています。照明にもこだわり、火の揺らぎ効果を感じてもらいたいという思いから暖炉も設置しました。「かふぇ　やまぼうし」も自分で設計しました。特にカウンターはお気に入りです。

ひと月に2回ほど、行政区単位のミニデイサービスとして、「かふぇ　やまぼうし」でのランチやお茶飲みと施設見学を実施しており、地域の方々に施設について知ってもらえるきっかけにもなっています。そのほか、利用者さんのご家族が孤立しないことや、介護の理解を深めてもらうことを目的とし、地域交流も行ってきました。地域と防災協定を結び、震災時もお互いに声を掛け合い、支えあうことができたと思います。

『小さな街』の大きな存在

石塚さん 保育所「みんなの家あゆむ」では、元々は職員のお子さんをお預かりしていましたが、現在は地域のお子さんにもご利用いただいています。昔の田舎には、家の中に子どもからお年寄りまでいたのが普通でした。子どもは社会の中で育っていくものですし、同じ敷地内で生活するお年寄りの方にとっても、子ども達の存在は大きいですね。子ども達が一番優秀な介護士さんかもしれないです。

『小さな街』での夢

猪又さん まだまだやりたいことは沢山ありますが、「ここで働けて良かった」と職員が感じ、「明日の楽しみ」を利用者さんに感じてもらえるような、両者が輝ける場所づくりを職員と共にやっていきたいです。

石塚さん 現在、事務所と現場の両方の仕事をする中で、働く職員の研修制度を充実させたいと考えています。介護が未経験の職員もいれば、経験者もいます。実務的な研修制度ももちろんですが、「みんなの家」のすべての職員が、代表取締役の思いでもある「ワクワクしながら仕事をしよう」という共通の認識を持って働いてもらえるように頑張っています。

「かふぇ　やまぼうし」では、就労継続支援B型「みんなの家のぞみ」の利用者も働いており、丁寧に注文を取り、配膳、下膳する姿がありました。この日働いていたリエさんのおすすめメニューは牛カルビ丼とレモンティー。「お客さんが増えて、多くの注文が入る時が大変です」と教えてくれました。ゆったりとしたBGMに木のぬくもりを感じられる店内はとても素敵な空間で、お昼時にはお友達とランチに来られた方でにぎわっていました。常連の男性もカウンターでコーヒーを飲み、この空間を楽しんでいるようでした。

▲「かふぇ　やまぼうし」で働くリエさんとお気に入りのカウンター

▲毎年8月に開催する夏祭りの様子。地域の方々も参加し、今年で20回目を迎えます。